

巻頭言

「赤十字病院検査室の 連携と探求」に向けて



日本赤十字社臨床検査技師会
副会長 油野 友二（金沢赤十字病院）

会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より日本赤十字社臨床検査技師会に対しまして、格別のご支援、ご理解ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

早いもので、若輩、微力であること重々自覚しておりながら、引地元会長、三浦会長の下で主に「日赤検査」の編集担当をさせていただいております。いつの間にか年月を経て副会長の重責を拝命させていただきました。常務理事、理事の皆様と共に充実した赤臨技活動を目指し、また、充実した活動とは何かを問い、方針を施策して参りましたが、今になって、その責任の重さ、現在の医療環境・状勢を踏まえた検査室運営、その難しさを痛感、再認識しているところであります。まだまだ力不足ではございますが、本年も皆様のお役に立てるよう、会員相互の橋渡しとなれるよう、尚一層の努力、精進を重ねてまいりますので何卒よろしく願いいたします。

日々進歩する医療において、臨床検査部門は「探求」の視点をより研ぎ澄まさないくはなりません。しかし、各検査分野での進歩のみでは、これからの臨床検査室は施設における十分な存在とは言えません。チーム医療による医療の質の向上が求められているなかで、私ども臨床検査技師は患者様のため疾病の病態情報を迅速に、的確に伝え、診療に参画することが必要だと考えます。そのためには検査部内での「連携」、他職種との「連携」が重要です。さらに、私たちは日本赤十字社の一員として、全国医療施設の大きなネットワークがあります。この赤臨技の「連携」を未曾有の大震災のような場面も含めてどのように活用し、強固なものとするべきかについて考える必要があります。そして一日も早い仕組みの構築が必要です。

昨年、地域災害拠点病院の多くを担う全国日赤施設を踏まえ、災害医療下での検査室、災害に備え検査室として何ができるか、何を準備すべきかをテーマに業務研修会を企画いたしました。東日本大震災での実際の報告を受けて大変活発に討論が行われました。本年も、「危機的条件下で検査を継続するためには」をテーマに事業継続計画（BCP）といった手法を用いての研修を企画しております。

また、平成25年7月13・14日の両日、八戸市において第19回日赤検査学術大会が開催されます。ご準備頂きました八戸赤十字病院検査部の皆様に心より感謝申し上げます、より多くの会員各位の参加をお願いいたします。

本年が会員皆様にとって飛躍の年となりますよう、また、本会を介し、会員相互のお付き合いがより活発になりますことを願い、皆様の積極的な赤臨技活動への参画とご協力をお願いいたします。